



(有)富士紙器

創業1948(昭和23)年。板紙製品を手掛け、後に段ボール箱づくり。2011年、独自に考案した子ども用段ボール製のイス「猫田君」でエクセ

大評判、段ボール製イス『猫田君』 オリジナル商品、次々とアイデア

2010年10月、産業まつりまであと1カ月と迫っていた。主催者から何か目玉になるものを出版してほしい、と要請されていた。

さて、何にするか。金がかからず面白いものを。瀬川宗穂(むねお)専務は考えた。腹案はあった。それを組み立ててれば子供用の段ボールで出来たイスになる。でも、形だけではつまらない。

「キャラクター性を持たせてみたら。」
「それなら動物がいい。イヌかネコか?」

「20、30代のお母さんが子供に買いたいと思うのはどっち。」
妻の奈月さん、工場長で義弟の小金浩介さんを交え事務室で知恵を絞った。出した答えが「イヌには申し訳ないが、ネコではないか」。

レントデザイン奨励賞受賞。新聞、テレビで紹介され一躍注目を集める。付加価値のある箱づくりをめざし、次々と新商品を開発中。山形市あけぼの1-1-6。☎686-2047。代表取締役瀬川勇一

た。目、鼻、口、ひげ。それぞれパーツを作り段ボールに着けてみた。「顔の位置が下がりがすぎる。それではイヌに見える。」

「反対面に尻尾を着けてみれば。」
こうして侃々諤々(かんかんがくがく)の末、2011年のエクセレントデザイン奨励賞に輝く『猫田君』がこの世に誕生した。

同社の創業は1958(昭和23)年。山形警察署の刑事をしていた祖父勲氏が早期退職し、山形市内の箱屋さんから居抜きで譲り受けて始めた。注射器のアンブルを入れる箱を製造し製薬会社に納入。菓子箱、タオル箱を板紙で作る、やがて板紙から段ボールを材料とした紙器製品の製造販売へとシフトした。

昭和42年に現在地に移った。仕事は順調に推移していたが、「単に製品を納入するだけの企業対企業の取引

から脱皮したい。それだけでなく製造業が海外にシフトしている。製品を収納する段ボール箱の受注が減るのは必至。納入先確保のため、同業者間の価格競争が激しくなる。何とかオリジナル商品、それも企業ではなく個人向けの商品を生み出さなくては(瀬川専務)と考えていたその矢先の出来事だった。

『猫田君』の評判は上々だった。だれもが「これは何だ?」と興味を示した。縦、横、高さとも25センチ前後の正方形、体重60kgの大人が1年座っても大丈夫と説明すると一様に驚き、そして笑顔となった。

山形商工会議所主催の会員異業種交流会にも登場し、体重約120kgの小金工場長が座るパフォーマンスに会場はどっと湧いた。続いてイス、ウサギ、カエルのいすを製作した。『犬山さん』『兎理(うさぎり)さん』『蛙乃(かえるの)さん』『猫田君』同様それぞれに名前が付けられ、何でイスになったのかを説明するストーリーが作られた。

『猫田君』の場合は、川に流されたおじいさんを助けようとして溺れて死んだネコを偲び、おじいさんが一心不乱に工作、段ボールのイスとして生まれ変わった。物語性を持つと愛着がわく。子どもたちに段ボールの動物にも命がある、かわいがってほしい、という願いを込めた。

製の持ち手を付けた。箱自体にも価値を付ける狙いだ。

一方、瀬川専務は、「プロ、アマ問わずモノづくりに励む人たち、素晴らしい製品を生み出している地元企業に発表の場を提供したい、賑わいを創出したい」と、作品の販売や展示、ワークショップを行う野外イベント「みはらしクラフトミュージアム」(蔵王みはらしの丘で開催)の実行委員長として走り回る。

仙台市クリスロードの東北ろっけんパークにチャレンジショップを出店店舗のディスプレイを全部段ボールで製作し注目を集めた。

「確かに箱はモノを入れる、モノを運ぶためにある。でもそれ以上に付加価値のある存在を追い求めていきたい。ただの入れ物でなく、箱それ自体に価値を見いだせるもの。持って楽しくなるデザインを創り出していきたい(瀬川専務)。」

売り上げに占めるオリジナル商品の割合は今、わずか1%。でもその1%は明日への第一歩。多くの方々と交流し、学び、山形発の何だか面白い段ボール箱をつくっていく。意欲満々だ。

箱はモノを入れる、モノを運ぶためにある。でもただの入れ物でなく、それ自体に価値を与えたい。おしゃるで、ユニークで、見て、持って、使って何だか楽しくなる、そんなオリジナル商品を提供したい。



写真左は仙台クリスロード・東北ろっけんパークのテナントショップ。「猫田君とおしゃれなりんご箱」(右上)、山形まなび館には『猫田君』『犬山さん』『兎理さん』『蛙乃さん』が勢ぞろいした(右下)



重さ120kgの方が座っても大丈夫。今年2月、山形商工会議所主催の会員異業種交流会でのパフォーマンス。会場はどっと湧いた